



旭山の猛禽事情2020

旭山で記録がある猛禽類の近況を短くまとめました。

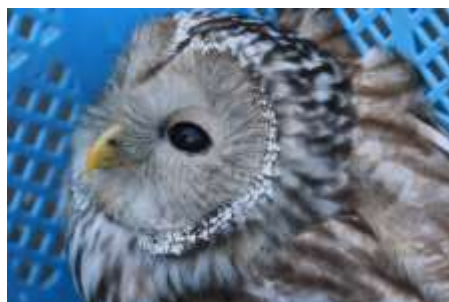
◆タカ目タカ科

- ★オオタカ＝今年は園内で営巣する動きもなく、例年並みにしばしば見られる状態でした。
- ★ハイタカ＝しばしば見られていますが、秋から冬には観察機会が増えます。
- ★ツミ＝過去何度か記録があるだけですがいつ出てもおかしくない鳥です。
- ★クマタカ＝南区に住んでいるものが年に数回飛んで来て見られます。
- ★ノスリ＝1羽が藻岩山周辺に居ついていて観察機会は比較的多いです。
- ★トビ＝ときどき飛んで来ますが春先と夏から秋は観察機会が多くなります。
- ★ハチクマ(右写真→)＝9月に2羽、10月上旬にも1羽が観察されました。
- ★オオワシ＝冬にしばしば見られますが今年はどうでしょうか。
- ★オジロワシ＝石狩川下流部に通年いる他冬鳥としても渡って来ており、旭山では夏の観察記録はいまのところなく、冬にはしばしば見られています。



◆ハヤブサ目ハヤブサ科

- ★チゴハヤブサ(右写真→)＝旭山の近くで営巣・繁殖するようになったようで、今年は旭山でも頻繁に見られました。チゴハヤブサは草原・農耕地にすみ森林にはいない鳥ですが、人との距離を保てるようになり、緑が多い住宅地にも来るようになったものと考えられます。
- ★ハヤブサ＝年に数回旭山でも見られます。
- ★コチョウゲンボウ＝ここ数年現れていません。



◆フクロウ目フクロウ科

- ★フクロウ＝旭山で赤外線センサーカメラをしかけたところ、7月の夜に活動するフクロウが写っていました。また、公園の門で夜に見たという話や、住宅街でしばしば声を聞くという話もあり、藻岩山一帯に生息しているのは確かなようですが、なかなかお目にかかれません。ところが、10月上旬、中島公園でビルに当たって脳震盪を起こしたフクロウが保護され、骨折などはなかったので回復後旭山に運んで放鳥されたということがありました。左写真はその時のもので、また見られるかもしれません。

- ★アオバズク＝3年前に旭山で初めて記録されましたがそれ以降観察情報はありません。

レストハウスだより 2020年10月

喉もと過ぎれば・・・の例えどおり、暑さが恋しく思われる朝夕の空気。レストハウス今期の営業もひと月余りを残すところとなりました。

今期は、コロナ禍の中、自粛機運の高まりでオープンが6月からとなり、三密とは無関係と思われた旭山記念公園も人々の訪れは今一つの感。

7月・8月と猛暑が数日続き、高台の公園に涼を求める来園者が訪れましたが、逃げ場のない日差しの中、滞在時間もそこそこの様子。レストハウスが閉店する夕刻になって展望広場へと向かう来園者の数が増え始めと言う日々でした。

売店では、かき氷やソフトアイスなどの定番は今月も提供いたします。今月からはホット甘酒をメニューに加えコーヒーと共に温かい飲み物の充実を図り、フードメニューと合わせてお楽しみいただけます。

こうじあまぎけ
麹甘酒

・無加糖・ノンアルコール・



旭山野鳥メモ①⑨ カケス(亜種ミヤマカケス)

カケス(亜種ミヤマカケス) Eurasian Jay *Garrulus glandarius* スズメ目カラス科

夏は山地で繁殖、秋に低地に降りて越冬、春に山地に戻る。

旭山では例年9月に現れ、4月中旬までに見られなくなる。

しかし、山の食糧が豊富な年は低地にほとんど降りて来ず、旭山でも過去2回の冬にはほとんど見られない「幻の鳥」だった。

でも今年は9月中旬に数羽が山から降りて来て越冬しそうな雰囲気。

カケスはカラス科らしいしわがれた騒がしい声で「ジェーイツ」と賑やかに鳴き、英語ではその声の名前にもなっている。

カケスは他の鳥や動物の鳴き真似もする。クマゲラの「キョーン」に似せた声を出すのが声の質が違うのですぐ分かる。かつて庭先の犬の鳴き真似をしていたことがあり、声の質は違うがリズムやテンポは見事に同じだった。ヒヨドリの真似はお得意。鳴き真似をしている時に見つけると、まるで「ばれたか」とでもいうように本来の「ジェーイツ」という大声を出して飛んで逃げるのが最高に面白い。

そしてカケスは翼の青い羽が美しく、羽を広げるとそれが際立つ。飛ぶ姿もぜひ観察したい。

北海道だけにいる亜種ミヤマカケスは頭が明るい茶色で、本州以南のカケスとは明らかに色合いが違う。

カケスがいると冬の森が賑やかになる。カケスがいらない冬は寂しかった。この冬は楽しくなりそう。



10月の野鳥トピックス

野鳥についての詳しい情報はホームページの野鳥情報をご覧ください。森の家までおたずねください。10月は冬の鳥が来ます。ヒレンジャク、キレンジャク、マミチャジナイ、シロハラ、ルリビタキ、ウソ、マヒワ、ベニヒワ、ミヤマホオジロ、ミソサザイ等、数日しか見られない鳥もいます。

★カケス＝上の記事をご参照ください。

★シメ＝9月下旬に頭が緑みがかった幼鳥連れ家族が見られました。

旭山でシメの幼鳥が見られたのは初めて。シメは冬も見られます。

★イカル＝9月中は園内で多く観察され、まだもう少し見られそうです。

★ツグミ＝9月下旬にこの秋初めて観察、例年より早めでした。

★クマゲラ＝9月も園内での観察機会は多く、この先も期待です。

★ヤマゲラ＝今年はこの時期にも「ピョップピョップ」と大声で鳴いています。

★アオバト＝今年は10月にも観察情報がありましたがいままでいるか？

★シマエナガ＝9月中旬以降ほぼ毎日森の家周辺などで見られています。カラ類混群にいたることもあります。



↑ 帰って来たシマエナガ

2020年、旭山で見られなかった花

今年はほとんどあるいはまったく見なかった花です(カッコ内はその花が咲く時期)



・ハナニガナ(6～7月): 3年前から少なくなり今年はずいに見られませんでした。

・キツネノボタン(6～7月): 旭山都市環境林広場で毎年咲いていましたが今年は見られませんでした。

・キツリフネ(7～8月)(←左写真): 今年はずい一度も見られませんでした。5年ほど前まではたくさん咲いていて「おこりんぼ」遊びもできたのですが。

・ネジバナ(8月): 毎年「ここにあったか」という感じで幾つか見つけますが今年は見られませんでした。ただネジバナは以前から年によりあつたりなかったりです。

・アキノキリンソウ(9月): 都市環境林に行く道の脇に毎年咲きますが今年はずい咲きませんでした。

・ミゾソバ(9月): 栗の木デッキ近くにあった小群落が3年くらい前なくなり花も見られなくなりました。

・サラシナショウマ(9月): 栗の木デッキ下にひと株だけありますが今年はずい花が見られませんでした。



公式サイト

「アカゲラ通信」 第84号 2020(令和2)年10月9日発行

発行: (公財) 札幌市公園緑化協会 旭山記念公園管理事務所

住所: 〒064-0943 北海道札幌市中央区界川4丁目

連絡先: 電話 011-200-0311 (土・日・祝日 10時～16時) FAX 011-200-0351

<http://www.sapporo-park.or.jp/asahi-yama/>